



里見八犬傳 第貳輯卷之七



Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



南總里見八犬傳第二輯卷之二

東都曲亭主人編次

第十三回 尺素を遺ぐ因果とづく松

雲霧と拂て女孽を下せし休

伏姫へおひづき。奇しき童小現渝さとくを明の眠覺たのぐ。爰々  
よそあり跡とえぬ人の言葉のあやれよう。疑ひへたらうる涙乃  
あまえ。袖へおふ腰を絞るぞうふ嘆くり。歎き沈せまひうらえ  
雨小敷妙の袖へおふ腰を絞るぞうふ嘆くり。歎き沈せまひうらえ  
あとども心操。人立つゝ立つゝ。日来雄くへん姫うるうべうら  
騒ぐ眉とおほき額ふかくろ黒髪と。搔あぐく目拭ひうら  
ゆ前世よ造り罪へ秤成。おりと軽さんちう松じゆ。遂よこの才ふ報ひ  
來る。かくあぐあぐとまろ人のうらみのあうねうよ。速莫親のうへま

かの崇を負ひたと傳へ。後のみ後の世より。掠落の底ふ沈む。

悔一とぞべしもあらず。只はゞかく悲しき。親のぬる又人のぬる蓬き  
心ゆくみ行ふ種ある畜生の。そふ氣を受へての子と。方小宿一ースの  
つみせん。そもこの山み入り。一日より。鶴の林のあづれをつぶれ。就鳥の嶺の  
えを仰ぐ。念不退流經の外ハ。ようふ他事ありの。佛もくみ  
救ひあらど神さへ助けめり。有りしるの実ふよ。や臥房を  
共ふせとどと。そひり入解人證据へる。こがう人のそへ親乃恥。力の  
世を換ふとも。竟み雪う時。あくまで。只畜生の妻といひ入生ての耻辱。  
死一てあらうと。諦へ物あるべや。かよえ鬼の毛乃末。もく露をうす  
よきをきくと。裏ふ滝田よきしと。犬を殺一くろろとも。みゆ死  
さうと。怖一け。死へを折ハ。あらうと。死かへりても業因歎されば  
善巧方便と。従ひせまふ。佛の書ゆ。有ざれ因果といふもあり  
り。やこの子の生き。あふ親同胞。み幸あつと。家の榮をうせぶと。  
あよみ。恥。やへえん。悲しきと。声立。傷の人ふのひどく。そひ  
凝て。ひなづく。ふ賞し。公も乱。もろ。忍ぶ。又は繁薄。尾花。下。みゆ  
き。秋の日影。のさと。げる。谷向。八百の名残。と。岸。水浴。山根。頂。近く  
鳴。う。伏姫。信と。仰。瞻。見。外。ふ。入。ゆ。み。あく。寔。小畜生道  
この身。臂。劍。山路。み。追。登。さと。阿鼻。地獄。後。世。ひ。ま。ご。と。  
さふくわ。彼童。そ。不思。終。よ。こが。あ。ことゆ。ま。畜。審。お。へ。こ。  
み。天眼。通。く。え。る。如。か。旗。お。の。ひ。ご。る。爽。め。く。岩。支。る。この。山。川。より  
李。う。禍。福。吉。凶。を。断。る。と。只。嘗。外。指。ふ。似。う。の。め。人の。指。の。神。子。傍。乃  
老。女。と。い。と。い。と。そ。う。ぐ。う。こ。ご。き。だ。余。ま。ス。と。れ。神。る。う。く。難。う。複

まこととぞよせん素よりこの安房より齡數百みうつしめる醍醐師あると云ふ。彼  
はれに仕る神童ありべしも見えぬ。渠只假の言を殺す。こゝで醍醐師  
弟子ゆく。其の採るといひつるの致。そのどる所も定うるべく。この一いづれ  
麓となり或へ洲崎みあり。らと云ふくちあへをも。これらも亦役行者  
の示現なりや。さうてちきく人。曩曩みゆかる利益あり。それハ禪を時あるが  
吾脩定（ごくじょう）の小ちく。核ども。正しく得さうゆひゆ。殊數ハ要時も劣を放さぞ。  
祈念懈る。再び奇特をえせ。もとより遂に隠れ。業因も。  
神も佛も今あら。せんとぐくそどもとめあ。効ても凡丈のかく。さへ悟り  
く。迷ひ易う。腹うへハ子。多く形つらぐ。あくみ生とまれて後ふ  
又生はとへ。ひうるか。あくま。又生を産む。親小あらんまふ。の  
あらんとあらんく。おひ辨へざ。吾脩定。前ふわいひあげて。良人ハる。

とのゆのまへ中らきと。うへ入るが。あくと。妨せぬ。教導へ。方あく  
えうへ。父親同胞。お恥が。やうあく。アラシ。う。流々水。よ。力を。任。骸も  
おも。おぼる。な。お。そして。毛恥をかく。うん。叶う。と。こ。と。と。同。これよ  
苔く。やうやく。から。決。め。わ。お。あ。く。草。小。膝。突。ち。く。刃。を。起。し。水。際。小。立  
よう。う。ひ。し。う。こ。ほ。みて。も。こ。の。傍。よ。水。肩。と。の。う。日。來。よ。り。川。の。向。ひ。の。岸  
あ。で。も。専。使。を。あ。り。し。母。う。の。心。慈。を。あ。う。が。る。小。仰。く。罪。あ。く。う。  
ひと。あ。の。と。こ。ま。う。一筆送。し。金。う。べ。と。ても。か。く。て。も。業。因。と。ひ。捨。き。を。あ。う。人。あ。く。へ  
こう。尺。素。も。朽。ま。朽。よ。命。毛。を。要。時。近。く。そ。ぐ。と。却。う。ど。う。は。お  
き。そ。ぎ。捨。し。乾。ふ。と。と。ほ。ろ。く。と。ち。う。と。際。脆。を。村。肝。の。望。と。足。も。う。よ。や。か。舊。の  
洞。ふ。そ。へ。り。あ。ふ。當。下。八。房。へ。自。然。生。の。薯。蕷。枝。つ。れ。の。果。み。ど。く。く。能  
く。そ。あ。く。離。う。へ。父。翁。く。そ。り。只。今。か。く。せ。う。か。翁。ア。く。一。及。あ。や。り。玄。玉。坐

長毛袂小寅縁く。後小限毛又先毛立尾を掉鼻と鳴し。遂に  
うぶ如く。只管食ふ勸毛伏姫ハうぶく。毛るも齋忌く。跡一  
く。絶て言葉毛けうぶ。石室の燐ちうぶゆく。覗毛身毛掲流し。より  
まくあくあつとふく。料紙の皺を引返し。こづうへ後者の示現まで。  
正毛  
辭みぞく矣。毛く。いと哀毛みぞ。写毛折しも。あれ水ハ瀬やうぶ  
考。毛りよひ。・  
農毛く。三國大夫がうど。想像うべく。松ハ峯上ふ吟して。有馬皇子が  
む毛す  
毎常を示せ。りふへより今世す。風見毛も思う。直毛を曲  
毛す。薄命うく屍を溝瀆野經毛曝せる。柳亦りくぞく毛。  
そが妻。そが子。毛至て。數は少いとろく。ひづえスあ毛ど。こづ  
え毛。例毛く。毛業因み。骸毛ぐり。失毛と母。毛人間代めぐれ。  
そが後経毛果毛らん。毛毛。毛毛。毛在さじと。毛毛後毛。毛限り毛。

嘆毛倍毛。不孝の罪。賄ふ時。我遍毛ひ。えさん。と。そく。ど  
そひ。絶毛。只恩愛の鮮。許毛せ。そり。べふ。よ。ひが根。根。松の  
露。袖の下。毛未毫。小涙乃川と。うるや。毛。小涙毛。あり。ひを水莖乃。筆毛  
ひ。せく。続。之。巻。え。く。嘆息。よ。る。く。ゆ。伏。ひ。ゆ。た。四方。弥院の  
利劍を借。も。煩惱の羈。と。あ。ご。に。冥土の旅の前途。え。称名の外。あ。ご。毛。  
と。急地。毛。ち。ひ。く。し。ら。毛。毛。毛。來。菊乃花。小。清水。を。汲。毛。  
佛。小。毛。向。毛。佛。小。毛。樹。毛。殊。數。を。取。て。推。揃。毛。と。う。あ。ふ。常。毛。あ。す。音。毛  
せ。毛。あ。ハ。不。思。縫。や。と。取。毛。と。う。あ。か。う。あ。見。き。ふ。數。毛。う。殊。数  
毛。頭。毛。う。如。是。畜。生。獲。菩。提。心。の。八。の。文。字。へ。跡。も。う。い。う。の。經。み。う。仁。義。礼  
智。忠。信。孝。悌。と。う。り。の。う。と。う。い。と。鮮。み。続。毛。う。伏。姫。ハ。又。さ。と。ふ。か。る。奇  
特。を。う。お。う。な。不。疑。ひ。を。解。よ。も。う。ほ。う。く。毛。ひ。う。す。ゆ。この。ほ。数

ち。乞へ仁義礼智云々の文字あり。かくもハ房と伴との山へ入ると  
セイ比是畜生云々とハの文字みる所とて。芭果と件の一匁のぞ。  
ハ房も亦かく菩提心を發して。余ゆふ今又畜生四足の文字ハ失く  
舊の如く人道ハ行と示させ。又人權者の方便測にいと淺もろなが  
女の智をりく。何と辨へ給うんや。又う所知りて推とれ。吾脩と犬の  
氣を受て平氣と取扱とあり。又非命より死。遂小非命より死。畜生道乃  
苦報又似。又ども佛法の功力より。ハ房と人菩提に入り。未  
世ハ仁義ハ行の人道よ生とより。然も小示させし人の欲りをあん  
ゆハ房をも。己が身の殺さば畜生の苦を授く。とぞうとぬべし。  
りまくそれハ不にあり。渠ハその主乃のみ。大敵を亡した。かとば  
星あよう忠ゆ。又去歲よりしきこの山。五日。飢渴と凌せらる。  
かとバス養ひの恩き。トトロ。本世ハ人と生とく。富貴の家の子とある  
と。その忠この恩あるの。今怪々々り。死を促す。忍んや。これの  
よ。尔ありの隨分。告て生死を渠み任せん。さんと殊數を左手小指。前  
足突立あゆ。眺めをうだ。ようち向ひ。やよハ房。からひふゆ。下  
け。よ。幸うれりの二つあり。又幸あはれ。ひあくらあり。則吾脩  
汝うり。又ハ國主の息女。うども。翁を重んと。と。ひ。幸よ畜生ふ  
と。え。  
伴ゆ。と。この身乃不幸なり。されど。穢。犯さと。ゆ。うく。世を  
離。自得の門。又三宝の引接を希ひ。遂に念願成就。と。ウ  
往生の素懐を遂え。と。この身の幸うり。又只。汝ハ畜生なり。も。  
國本大功ある。りく。然て國主の息女を獲。と。人畜の道異。ゆ。と。の  
欲を。汝遂。と。じ。耳。妙法の事。を。聽く。遂に菩提の心。發せり。





神變大菩薩



妙徳經の雲が乃  
功徳經の雲が乃  
懲を披

金ゆき太さゆ

障あり故入成佛名く。たゞ人余ゆハ歳龍女といひ。かくも無上  
菩提をゆく。便長女人ゆく。成仏の最初。かくも伏姫末期。小及  
びく。身のゆえ犬のゆえ。提婆文品を読む。今狐限主と号ふ。音声もく  
澄澄す。まことべ。又委きりく。蓮の糸を引く如く。入出水のまゆ似方。峯の

松風

もこゑ和し。谷の幽響ゆ。亘不應。石を集く。膳衆とせし。むすめ

かくぞあとけん。いとゆ愛へる道心。う。もう経。続經。既。果ふうりて。  
三千衆生發菩提心。而得受記。智積菩薩。及舍利弗。一切衆生。默然信受。續更バ。八房ハ衝。上身を起。伏姫を見。入り。入。水際を指。ゆく。前面の岸。鳥銭の筒。書。急地。船本房。二つ。まよ。八房ハ呪。打。煙の中。ふ。破。と。什。あ。や。り。れ。ぬ。伏姫。右の乳の下。打破。苦。苦。と。一声。叫。び。も。あ。と。經。卷を。も。手。拿。ふ。ぐ。

横。さ。ゆ。傳。猿。び。ゆ。ひ。ぬ。時。う。う。去。歳。よ。う。く。川。よ。う。あ。う。露。ふ。く。  
絶。や。暗。間。り。う。う。く。ふ。今。鳥。銭。の。音。そ。も。み。拭。ひ。如。く。晴。よ。う。年。な。不  
可。う。一。個。の。褐。人。拂。う。達。く。拂。の。脚。半。よ。ひ。う。ド。色。う。甲。樹。く。遊。儀。乃  
獵。中。の。緒。を。結。び。放。ぐ。頃。木。掛け。右。も。ふ。鳥。銭。引。提。て。前。面。の。岸。ふ。立。あ。  
左。流。水。と。信。と。て。既。は。流。瀬。を。知。り。も。え。船。く。岸。よ。り。走。く。  
命。す。鳥。銭。肩。ゆ。うち。指。く。く。伏。指。て。く。ま。る。この。川。う。ぎ。意。れ。ど。ゆ。  
も。ふ。み。伏。指。流。く。水。ハ。高。股。を。浸。ざ。と。被。壯。俊。ハ。お。も。く。勇。も。勢。ひ  
猛。虎。の。子。を。負。ふ。と。又。醉。象。の。牝。を。追。ふ。と。ち。く。足。を。踏。進。め。く。二。の  
幅。十。丈。あ。お。り。う。る。流水。を。切。く。瞬。間。よ。あ。う。この。岸。ふ。走。あ。う。且。き。鏡。と  
揮。揚。く。打。倒。く。八。房。と。う。て。擊。と。五。六。十。骨。碎。け。皮。破。と。く。復。甦。べ。う。と  
あ。う。き。み。ス。莞。尔。と。笑。く。鳥。銭。投。捨。い。で。姫。入。を。と。石。室。の。や。と。り。す。で。進。三

寄主とて人より亦伏姫り。手剣をもてて氣息は。どよへとむろと駆きさり。  
かく抱き起て。夜と且瘡口を展檢る。み車すく瘡へ凌ぐ。周章を懐  
す。夢が取出く。口中ふ渢ぎへ。頻りよ喚活をとどめ。す口の脹絶果て。  
全身へもや冰の如し。幾元化か御ありとも。故べうむ足えらば。壯俊へ  
天うち仰がく。數回嘆息し。悲をうるゝ所。謀る所。悉鷦の觜と  
まぶつたひがうなれ。岩船ひ月來日來晴。をそ。挾霧へ晴つ。八房を移す。とあてて不まえ。  
あやうじたふ姫入さん。竟又縛絶ひひを出没。奇異あり大みをかそ  
せ。固てこゝ禁制の山とある。身をあれ。命を捨ても。姫入。救ひ  
よ。おゆけんせんと。ちふ忠義へ不忠とあり。又万倍の罪を懲せら。百遍  
悔ひ千遍悔とも。今へてもかくとま。ひだりのやまと。ゆく肚を切く  
姫入の冥土のゆん俱仕さん。やまと。と襟を渡す。腰刀を拔出し。ま  
く。ちびく。  
拭よ。卷そそく。南無阿弥陀仏と唱もあり。ぞ。刀尖を脇腹。穴大左人と  
き。右の臂射削く。こゑと。そも。もゆるゝ。みどりも落され。驚き  
よ。雄小遣ゆける。かむ。と。吟む一首の古歌。みどり付齋誰と向せる。果た。金  
碗大浦早や。あ。且く等と。喉と。もく。里見治。大浦。義実朝臣。熊の  
ぬ。わがさ。ゆ。ち。あ。ま。こ。て。ゆ。や。ふ。い。後方。小焼く。後者。ゆく。壇内。義人。貞経の。指揮。し。手。拂しく。まの左邊。お  
り。そよ。お。義実鬼は。毛色。と。伏姫の。亡骸。を。尻目。み。う。て。寂期。の。お。  
お。か。行。と。も。宣。が。ど。のち。を。ゆ。あ。ほ。と。も。お。落。る。殊數。と。迷書。を。こ。き。ひ。て。  
義入。あ。お。と。お。ス。み。ぞ。貞経へ。と。お。る。も。お。う。くる。

義実朝臣ハ弓箭を捨て殊數を刀の鞘と拂且送書を乞ひ少一ノ一腰  
とぐふ嗟嘆せんといふるを。又貞行も兄せらか。之が中は金碗大脯  
孝徳へ慚愧。その刃を置とじうた。額は冷死汗をすし刃を脇ふひを  
敷く。只平伏てぞゆうける。當下義実へ傍の石と尻を拂く。孝徳は  
うち對ひ除下したる金碗大脯。汝不覺は法度を犯し。この山み入る  
のをうむと今伏姫と八房をうち殺せよ。仔細ありえ刃ともさへ  
争ひ。詳よに死ひゆ。いふぞや。と同多もあれど孝徳は意もすまを  
面ゆく。要時財を以ても举手。この形勢は貞行はそがゆくふきとを  
なまげます。  
大肺肺綻びゆ。且刃ともさめざ。とくもん答へて云ば。とあんくいれ。孝  
徳。おもやふ頭を擣刃を鞘小納め。掉副の刀のう共。尾を六堀内貞  
行。逃ふ。逃ふと些へり退を又貞行は對くゆ。元後もくる甲斐小國に由  
君のちる頃。年一年あつび。重の越度。後悔の外ゆ。アヒ。アヒ。アヒ  
千萬句も。この期ふ至く。詮うれ西行。方の罪を飾るか似られ。只一條を  
ヤ上人去年安西景連。謀を。安危のちん使を。結果を。脱れ  
走る道を。追捕の敵兵と血戦。辛く滻田へ立つ。おや景連が  
大軍充満。稻麻のど。攻囲む。最中。多く少へ城ふ入ると竟小物を。  
切く和殿。力。を。裁く。一臂の忠。盡人。と。うべて。脇。東條へ走。けれども  
その甲斐。被。被。色。甚。戸。納。平。が。大軍。と。困。も。う。敵。へ。號。口。と。退。を。す。  
を。退。を。思。慮。を。が。く。し。へ。これ。も。亦。詮。う。れ。所。行。五。指。の。か。く。  
か。く。彈。ん。よ。一。參。よ。す。度。と。ほ。兩。城。素。す。と。兵。糧。そ。一。寔。よ。危。窮。存。亡。の

秋うり。且ま鎌倉へ推進。とく管領家へ急報。告援兵を乞催して。兩所の岡を殺崩。さぶ呂のあんぬ上あじ。とろひべし。白濱より。便船をも彼祖は赴き。末由を述急報。告援兵を乞とり。ども主君の書翰。うれゆゑふ。疑うて。縛どとのへま。そぞうなり。ある日をも。とひだる。安房へえま。景運へをや滅せよ。一國君がもんみふ属ぬ。吁歎し。ゆるふす。す功かうく阿容こと見あみへり。もととく今さう腹も切うき。と時郎を俟く功を立帰。翁父願ひまうん。そぞうやうく乃隠宅ふよく。舊里うきへ上総うる天羽の園村より。赴きく。祖父一惟。由ゆる。杜客某甲が家よ才をト。せうととく去歳と暮れ。今茲もおみド秋の色深く。潛びく。本月の初旬。姫入のす。灰ふけく。八月の犬ふ伴。富山の奥へ入。と。慥よあまく。告ほり。あり。こま山よ入る。五六日。姫入のあん所在を口。顧索。あまく。あまくこの岸より。袂霧あく。て。一日も晴れど。空氣。水の音の凄じく。廣陥深遠。測。と。か。正。螢崎輝武が溺死の。す。ばく。そく。と。推量。あく。かろく。ちくへ。ぬ。涉。川一條。隔ら。奥。孤。かろく。移。け。を。空く。暮。と。と。あ。う。頻。ア。ふ。焦。煤。の。三。果。ハ。疲。勞。く。冰。際。の。松。ふ。尻。うち。掛。く。ふ。む。む。じ。る。ア。シ。ト。モ。ア。ス。ス。ね。渓。洞。の。と。あ。う。あ。す。よ。經。よ。も。声。い。も。幽。ふ。穴。え。う。と。く。ヤ。と。騒。ぐ。四月を。移。水。際。よ。ま。そ。

耳を側そくづくと雪の女子の声。どく疑ひばらもあらず姫入よほやを  
べ。既よその女。吉。を信つ。いまごん姿をうるまよ。この時すて神明  
がさきゆうもよ。奉。佛陀の冥、助を仰ぐふあ下ざりせば。志成遂きけん。當國洲崎大明神  
えに。えええざがも。うちのちうぎ。わざ。那古の觀音大菩薩。孝徳が忠義空とぞへ狹霧をあきらかく  
ス。手と。此の川を輒くこゝまさせり。と丹纏を抽て且く祈念して目を  
むけ。不思議。今までも。黑白をヨロシ。川霧も。却々如く晴  
る。前回廻み眺望。石室とおぼれ。床と。予。見えをゆく  
姫。えり。さひより頬は淡し。何てかあう勇び。人既よろさんと  
まう。相手。八房へあまく云てや。水際。指て走てまわ。這奴。よせつ日  
て。あくまう。整と。後ふと。彼ぬ。さあゆめ。とツス。矢。弓。へ  
程よく。うり。拿。鳥。獲。取。ま。粗固。や。二。二。火。盞。切。主。を  
御。ひ。犬。水。際。よ。付。ま。う。こ。物。獲。つ。と早川の水。よう。を。ゆ。鷺。あ。  
えど。又。姫。え。も。あまれる。た。傷。ら。ま。か。う。枕。ゆ。ゆ。ま。う。參。  
とも。瘍。は。絶。う。濟。き。あ。と。り。や。と。う。死。盡。し。も。殫。せ。ど。も。縛。絶。  
き。べ。た。ど。も。う。身。の。命。と。ひ。ひ。ぐ。毛。を。吹。く。疵。を。求。め。る。  
後悔。其。妙。か。立。さ。く。不。切。く。冥。土。の。も。ん。俱。せ。ん。と。既。よ。光。妙。死。充。一。折。  
ろ。ひ。み。う。う。君。み。せ。あ。れ。な。り。約。死。さ。る。天。罰。ま。ん。法。度。を。犯。  
あ。く。と。の。ゆ。あ。の。び。入。の。と。あ。く。姫。入。ま。ふ。害。し。し。是。ハ。逆。の。罪。人。  
君。が。あ。ふ。く。刑。罰。を。希。ふ。外。少。く。ど。堀。内。ゆ。龜。入。ど。索。う。け。の。人。と。背  
が。あ。ふ。少。く。が。う。く。と。へ。ゆ。り。貞。烈。の。孝。徳。が。忠。心。城。く。あ。う。る。ゆ。  
る。每。ふ。点。駄。の。主。君。の。乳。色。衣。同。く。巣。寢。嘆。嗟。嘆。大。き。う。ま。且。く。  
ま。す。ゆ。は。う。と。く。と。し。る。お。う。れ。現。禍。福。得。失。ハ。人。力。を。り。く。よ。し。く。凡。智。を。か。く。端。へ。く。ど。

伏姫と大姉は寔ふその罪あり。刑罪追どりてとひよも。伏姫が死へ  
天命あり。渠り一汝又死りとむ。かううごこの川の水胥とまん。巻人  
その送書を讀せよ。と宣へ。うけあひて。と為つ。大姉が死とく。ふ  
つみゆく首より尾りあぐ。高ちふ續るどふ。孝徳やとく慚愧く。  
伏姫の賢才義烈。又感涙を拭ひあく。のよ。麻忽悔歎を續果  
けり。孝徳ハス孝徳ふうち對ひ大姉何とあろ。伏姫が死と  
禁入とく。亦潛びく。あらすみあらす。此度五十子が病著ハ只  
伏姫を愛惜の心氣疲労もしく危急。又及べ。渠が死ひを愁うと  
き。を異よ。この上の奥父兄と公りとる。とあるからうさる  
者。折りのそろそろ見る人。如此この示現をめぐる。よもよ  
後者木を麓よ畠め。口。と貞乃と。この山ふ登るのみ。示現よ  
任。川をつきさとをく水上を走る。この石室の北背ふ到り。  
主後既小とのれふ。近づんとも。程ふ。鳥児の筒音ふ。うち。敬馬きく  
来て。尼。伏姫。房。矢庭。轡。と。併どく。折。川を  
渡。と。向。どく。伏姫。轡。と。負。乃と。この山ふ登るのみ。示現よ  
金碗大袖。ス。と。渠騒。き。あ。お。ち。よ。く。姫。を。海。活。り。盡。と。療  
養。先。小。届。も。と。自。殺。の。先。期。ハ。野。心。り。く。姫。を。殺。せ。と。の。な。く。次。む  
お。ひ。ユ。ク。と。ば。喉。と。ぞ。う。汝。み。ぐ。う。思。惟。よ。大。と。殺。と。伏。姫。を。と。く。ひ  
あ。く。汝。が。す。死。や。く。え。や。賞。罰。訓。ハ。政。の。権。機。う。言。一。ト。毛。守。と。と。へ。駆。と  
舌。み。及。と。戯。言。と。と。も。ハ。房。よ。と。伏。姫。を。絆。く。う。と。の。一。言。毛。剛。敵

亡び四の郡へと爲宴、う當すふへぼしる。只、八房が大功されば、これらも前諾を  
變つて由ゆく。姫も亦て至死固辭のど。そがやく大ふ伴り。蹟を深山に  
住むとりども。幸みて穢さざり。一念続経の功力よりよろしく。八房  
さんふ菩提入りぬ。渠が端欲みをとふと。伏姫こと火憐正。憐ひの  
徳ある。あらかじてその亂代感に。有身生るといふ。奇なり。  
今その筆手の迹風ふと。との禍の胎るところ。因果の道理を知覺せり。  
己と當國は義兵と揚ぐ。山下定包を討。とぞその妻玉梓と生拘つ  
えじやまと。陳謝理りある。お仰く。放しぬ。さやんといひつた。大輔が父八郎孝吉  
ゆく練て駄駄列さう。あきよみよと。その冤魂。うが主従ふ崇拝するを  
歎とぞ。而て公つれまく。金碗孝吉が自殺のとれ。朦朧とく。  
女の姿。眼は遠望した。かの玉梓が。うごく。ふ囁く。うごく。八  
房の大と生れまく。伏姫をゆく。深山邊に隠す。親ふあらひりんせ。  
伏姫へ入るひづいた。八郎が子よ鷹と。加以大輔へ罪うりと  
む。忠義ふよづく。罪を獲。と。皆是因果の係ると。う縁故と推え。ハ  
む。命。忠義ふよづく。罪を獲。と。皆是因果の係ると。う縁故と推え。ハ  
む。王梓を助んと。ひ一ロの過ち。あの露へ未竟。この渓洞へ落あて。  
うしき山は生死の海を。見る。悲しけど。さよとく歎く。ハ詮うき  
うき。神災小正あり。邪あり。神の怒。死罰。とりひ鬼の怒。崇と  
り。彼玉梓へ悪災あり。伏姫が死へ崇る。大肺え。脱。不憶罪と  
え。寔ふ故あり。かへ憾うみせ。と。身と纏て。ひと叮嚀ふ。諭  
め。睿智。感く。孝德。火。小脇を進め。肺癰。よろて。父が自殺も  
と。もくら。きと。と。の薦命。火。曉る。ふ足れ。火。あくと。と。獨疑ひあり。八房も。ふ善  
方の薦命。火。曉る。ふ足れ。火。あくと。と。獨疑ひあり。八房も。ふ善

提み入るべ。惡靈祟疾ありとべふ。君ハ權者の示現かす。すく姫うへん  
 納セシム。紙定業。又まつあもとと。神仏のちて。死りく。け。一チ日も。善  
 き。姫うへん。在を。づれ。よれ。登山。その甲斐。みたる。ひ。うる。故ふせん。  
 と。向まれば。貞乃も。小膝。拍く。側より。大肺。微妙。アシテ。こう。君の。み  
 ず。一。風。そ。一。日。色。晴。ぬ。川。霧。の。忽。地。暗。き。人。和。敵。が。え。す。神。佛。の。冥  
 ま。助。あ。ふ。似。そ。そ。の。実。ひ。う。非。あ。り。こ。ど。の。う。基。も。ど。爲。消。く。い。と  
 真。実。ご。も。ア。ス。ひ。そ。民。實。朝。臣。う。ち。魚。改。され。も。亦。神。う。ト。移。定。う。小  
 ら。ひ。辨。改。ど。も。禍。福。ハ。糾。る。纏。の。心。人。の。命。ハ。天。又。係。ま。ア。これ。こ。の。よ  
 刻。ま。ア。伏。姫。む。く。る。う。ん。ふ。ハ。渠。只。犬。の。妻。と。の。見。人。則。姫。ハ。節。操  
 德。矣。と。八。房。ハ。苦。提。ヨ。入。里。へ。父。親。み。の。世。も。あ。う。せ。ん。と。て。權。者。の。導。き  
 ま。ふ。う。き。い。然。あ。ぐ。ん。ゆ。玉。晴。の。息。あ。う。ち。み。あ。り。き。し。も。多。甲。斐。あ。と。り。よ  
 ベ。キ。モ。ス。川。霧。の。晴。間。あ。く。伏。姫。も。八。房。も。大。肺。よ。擊。き。所。ハ。共。ハ。よ  
 と。の。川。の。水。肩。と。あ。ま。な。ん。総。迷。書。あ。よ。と。り。人。と。も。あ。う。き。る。内。ハ  
 情。元。と。り。人。款。さ。と。ふ。迷。恨。の。う。う。も。や。今。さ。う。り。人。へ。死。る。う。う。殺  
 とも。大。肺。が。父。八。郎。ハ。功。あ。つ。う。う。賞。を。受。え。と。自。殺。せ。事。不。収。入。  
 の。ふ。く。そ。の。子。を。と。り。立。く。東。條。の。城。主。よ。せ。入。伏。姫。を。り。て。妻。せ。入。と  
 そ。ス。折。う。大。肺。ハ。使。して。遂。よ。か。く。ぞ。伏。姫。ハ。八。房。よ。伴。う。て。深。山。ふ  
 入。里。ぬ。あ。く。ふ。至。ア。リ。レ。予。が。宿。食。画。餅。と。あ。ま。て。い。き。あ。く。と。う。猶。よ  
 憐。る。と。う。う。と。この。婚。縁。ハ。明。地。よ。ど。り。結。あ。エ。あ。う。ね。ど。も。親。ダ。か。に  
 約。セ。ア。伏。姫。よ。示。レ。高。神。童。が。言。葉。ふ。ふ。も。親。と。夫。又。あ。う。ん。と。り。ひ  
 え。夫。ハ。汝。を。ひ。ふ。う。べ。か。ら。有。小。姫。と。大。肺。大。肺。小。姫。ト。う。う。故。  
 嘉。ち。え。よ。さ。う。う。ん。則。權。者。大。方。便。の。妙。所。と。り。え。も。り。と。か。レ。因。縁。か。く。の。や。く。う。う。ハ。

雜をう咎。雜をう恨。人弦強けよ。かづくべ。弛む物極れ。かくもく。休  
 今よとて。家よ忌の障礙もある。へと子孫やうとく。繁昌  
 せん欣さん。とや。と諭。一人へ。自らも孝徳。も凝念へ春の冰の  
 とく解く落涙。あく。且く孝徳へ襟。う合せ。形容。改免。  
 寅加。餘る君の高恩。ゆ。月中。ふ秘。をまひ。婚縁のふ。う。  
 うけあう。も物。体。固。よと。あく。う。こうありて。娘。人。を。  
 救ひとく。とせ。と。と。と。後。みぞ。入。へり。へ。う。人。只。速。よ。某。が。頭。と  
 刻。さ。を。見。う。と。ス。代。る。う。も。あ。ヤ。ナ。リ。と。義。室。と。と。成。ゆ。あ。そ。と。そ。  
 勿論。の。う。そ。う。さ。と。う。う。わ。が。つ。く。つ。く。う。小。代。姫。が。瘦。へ。と  
 減。う。と。と。一。誕。生。を。う。わ。あ。と。女。を。殺。と。早。う。と。そ。や。これ。熟。この  
 珠。數。を。見。う。如。是。畜。生。云。云。の。一。句。へ。き。う。ふ。ち。う。ふ。か。う。ま。く。

仁義八行を。ふ。と。ある。實驗。ハ失。ベ。ト。と。余。ゆ。小。姫。が。倒。き。と。そ。二。の  
 除。數。を。み。え。と。離。せ。一。う。残。殘。る。と。ど。も。絶。入。そ。渠。ハ。舞。だ。時。よ。し。と。

あの。除。數。を。く。安。危。を。知。り。而。命。數。彈。る。と。も。祈。ひ。利。益。の。先  
 と。あ。う。ん。や。縛。協。が。く。忌。非。も。み。い。か。く。て。や。已。へ。と。鞠。小。掛。う。除。數。と。三  
 あ。か。く。額。小。か。一。當。日。く。念。づ。く。伏。姐。の。襟。ふ。り。つ。く。挂。タ。人。貞。約。序  
 德。左。右。よ。下。む。え。一。き。體。を。抱。起。一。後。行。者。の。名。号。と。唱。く。只。顧。祈  
 念。と。あ。宿。伏。姐。忽。地。目。を。瞬。き。一。息。吻。と。つ。死。あ。人。貞。約。序。德。欲  
 喜。小。捨。を。贈。之。は。あ。う。つ。せ。あ。人。缺。冕。入。す。て。り。ぞ。大。神。す。く。い。ぞ。か。ん  
 ち。き。父。君。ゆ。こ。う。と。せ。あ。ひ。ぬ。か。心。持。ひ。つ。小。い。そ。と。と。の。ま。と。左。右。と。天  
 之。ア。モ。取。う。と。う。か。少。孤。あ。り。故。ち。諸。袖。額。小。か。一。當。て。只。尊。然。と。立。ま。  
 現。理。り。と。美。実。ハ。間。近。く。と。あ。く。袖。引。搖。く。伏。姐。さ。み。と。愧。あ。人。み。ま。く。る。

主後二人の後者木ハみる難ニ在り。此度母の願よりて義実みじ  
うち來つゝ。一朝の祥焉あらず。權者の示現よりあらむ。ひ人哉がう人  
又八房。又さへ遣書をぞくも有り。余は金碗大浦へ去歲より  
上総のうふそり。あん考がう。次第坐て弱冠の一トモびらか。紙よ縛の  
顛末向由定め。とどかんとく。こより先ふこの山か  
潜ひ入つ。八房を轟倒し。た拔て。あん考も浅漬を負ひ。八房が  
死へ不便う。大浦みゆき。是亦因縁より。死ふあまき渠も  
ふがよろよ。夕晩よせ。やとひーの。さしごと書遣され  
えよ。とぞ。おも  
神童が言ふ。親と夫ふあす。或のうど。枉て。滝田へ立入り。病  
體ひく。母があそ。慰め。やよ代姫と理を切て。渝一見。ハ貞教。ホのう  
と。小拂歸館のう勿論。へ。旦の。義よ。ゆく。八房は。健。一年ゆう

この小拂隠り。その事果。よ。や是より。遁世の。おん志。あくとも。  
お孝行。みへえ。ごくん。とせ。おと。と。おとらく。賺。勦。まき。おと  
伏姫。ハ。涌。之。高。底。を。名。ぐ。押。拭。ひ。舊。の。お。ふ。と。あ。う。お。と。ぎ。親。乃  
ふ。う。う。迎。へ。お。仰。伏。背。き。め。う。ん。や。か。や。う。遇。世。阿。引。の。山。の。獸。小。異  
う。う。火。絶。よ。打。と。く。火。を。絶。り。う。ぶ。入。る。く。小。外。と。う。る。罪。滅。く。よ  
が。う。ん。ふ。そ。と。の。う。う。と。も。う。う。う。き。こ。の。形。容。を。親。よ。ア。セ。人。よ。ア  
も。く。阿。客。こ。と。い。づ。き。の。里。へ。か。く。う。ぐ。な。餌。よ。啼。く。鳥。の。巢。ご。ち。ま。と  
片。羽。う。子。ハ。可。愛。さ。も。ハ。レ。ヌ。ヤ。モ。と。と。鄙。詰。み。い。く。や。う。と。欲。飽。ヤ。モ。と  
慈。參。せ。ゆ。ふ。う。あ。家。尊。家。母。の。あ。ん。歎。き。嘆。言。て。ゆ。う。夜。の。鶴。つ。ま。恋。む。ね  
ふ。う。も。入。燒。野。の。雉。子。ゆ。う。鳴。く。波。の。雨。ハ。拂。え。り。う。れ。え。あ。ま。モ。苦。と  
海。を。う。脱。と。命。毛。の。筆。お。送。せ。ト。う。び。く。を行。う。足。と。モ。あ。え。ん。

火宅を出で頬惱の大も苦惱の友る事。この刃ハ絶え穢さず。おれ  
はまづ孫とも山告の実をうぬ身さへ結びて、百重の二ツをこれまで  
決め子とぞ約束。又父への心をうふそ死婚。ごみと豫約す。思  
食と侍りのあらとも。この期よりて云々と僕えさせられひて、人ゆ  
約おもねかん御家。かと孫させまふうとぞや。壁言ハ金碗大浦と侍使  
の因うと。親のあらふ許させらし。夫よ負えくへ房よ  
伴えらぶ。どんなのうえよ。うつうた不義ふぢうべ。素よどまつらうへに  
塔ヶ姫のあらとあらがをよしとす。こまへもあらむ。渠もあらむ。  
君只知り知召バ墳小劍を掛るをよし。又ハ房を夫とせし。大  
浦ハコトヘダ。あふこよみを讐せゆるを。ハ房も口う夫よ咎むを。  
大浦も示口不良入ら。とお見へゆう生ま來る。むどうぞ帰る  
觀ゆの旅田めあらかん。慈ミ過く。あまやと小情ほ。いとゆかー。親の  
恩。男の高冠山斧の迎歓推持を。あへ不孝のうへの不孝也。又あひうれ  
時ゆ日も。えうれ親のあん顔も。元つもあらやあらぬへば。あふ重き  
罪障。すううもあらた故うまく。あらし捨うせゆ。あれうのはじと  
母えよ。勸解言告く。百年のあん壽。翁願久の。とてもかくても後ま  
あれ次女を。あらとまうて。亡骸かくじゆを。蓋うり。孕婦の新鬼も。  
みみ血盆よ沈む。とりふそよて脱きぬ。業報あら。厭ふも甲然。みだ  
と。ながら。おの父あく。あやくも宿する胤と。まううどよ。おの心  
ひむ人の疑ひと。えのう解づれ。こととくと。臂ちうの。護身刀と  
剣。剣。腰へぎと。突立く。真一字小撮切。あや。ひ。瘡口より。  
一束の白毛。岡を出。襟よ掛させめひ。彼水晶の殊數。孤ほみく。

八犬傳三轉卷

山畫堂

弓内貞絵

里見



虚室か升ふと見えし殊數へ忽地弗と影離も。その一百も連続くやう小地上へ真骨と落びてまゝ空よりはの珠も駒糸繩とあく光明をもつて。心遠り入素也。赫奕する光景は流々星よ異なり。主従ハ今さう小姫の自殺が禁めあへど。それもあらず。蒼天をうち仰ぐ目も「思白」。あま下ぐ。とこちねふ楓と音く。あは山おろしの風のやかく八の灵光ハ八方よ散失く。跡ハ東の山乃端。かづ月のそぞり昇る。當日是数年後ハ大士出現して遙より見れ。家よ集合。崩牙ともかくうづべ。かくても姫ハ深瘞ふ屈せぬ。去る灵光を目送ア。腰も腹も物も身もうづけり。神の結び。腹帶も。疑ひも稍解。身もかく雲もなし。浮世のみみの。月死元猶しくのそぐハ西の天よそ導きに。弥陀仏と唱わゆ。子すへ以ひうれ。ちくく小進志を。竄期へ特よありきう。

身を鞆も鮮血は塗る。力を抜捨。そがむ。磇と仰く。こう言葉を女

子すへ以ひうれ。ちくく小進志を。竄期へ特よありきう。

第十四回 車をあく使女漢洞を涉  
錫杖鳴して、大記總と索

かくわう小進志を。貞乃ホハ伏姫の自殺を禁めあく。押頭の花を散せ。じく。迷惑。ちうきうけ。そが中。小孝徳ハ男子。ゆき。姫君乃まつ。じく。かま。末期の一句が激。さう。才を措とす。なう。よ。死。亡體のやう。ふあらう。血力をもとめて取て。燐と腹を切る。ひとと。そのう。義実声をゆき。立。ゆき。大捕狼狽する。そのう。小大罪。あらとながら。君命と侯をもく。自害せん。と。奇怪。う。伏姫。一見。難生。ちうき。ハ罪一等を旨ると。この山へ。の。ハ頭を刎へ。と。捉へ。の。反法度を枉て。あの。がまく。腹切。

と承聽人や觀念せよと進ミよと刃を引提立てハ願ふとア為。と孝徳ハ  
居る身の合當一項を延ミ殺さる。上より光く刃の稻妻丁と寺の  
大刀風。若し行き孝徳が髪弗と截捨め。仁君の恩義よりして畏る。不実ハ水をも  
練う孫の貞元も驚き。仁君の恩義よりして畏る。不実ハ水をも  
刃をすこし鞋小納く涙る涙をぬり拂ひ。又や爲人。云々。罪人を  
刑罰せり。法度ハ君の制まる。呼君入て。又破ると。古人の金言宣うる  
え。この民とり共み。この山に登つまう。大補ふ外口。又。既  
代う髪へ渠が亡父へす志ある。渠が擇き時より。名を大補と喚  
做せ。ハ大内輔佐の臣。とその父後を祝せ。又官職ゆずりやく進みて。  
治部大補と大補と。その國訓ハ異う。文字ハからぬ。主後同名。かる。  
故。主のえよ。あづた崇谷。又ふ受え。可惜。死壯俊が。す。木埋木と  
まん。父とくも不便。親八郎ハ大功。大補も忠。死ふ。も。そ。の  
親といひ。その子とひ。勲功ある。ども賞を獲む。その死ふ。陪。そ。の罪。  
陥る。及びて。主尚校。ふ。す。う。れ。る。この子。か。と。哀傷の涙。ハ。あ。く。よ  
禁め。や。大補。孝徳。よ。コ。が。ば。う。が。よ。く。も。知。う。べ。と。親の。お。娘。が。あ。る。  
命。父。お。ち。身。を。愛。佛。ふ。づ。行。く。高僧。知識。の。名。を。場。よ。す。く。爲。約  
す。や。と。叮。囁。又。諭。一。身。ハ。孝。徳。ハ。辱。う。ふ。か。う。落。疾。又。嘔。び。地。又。伏。て。  
意。う。孫。つ。声。を。咽。む。理。ア。う。ま。く。貞。元。ハ。鼻。う。ち。う。きて。進。ミ。出。今。か。く。下。め。ぬ  
君の。仁心。娘。への。最。期。大。唧。う。ま。く。き。う。も。ろ。く。家。臣。の。え。死。か。ま。で。小  
供。え。き。ま。み。大。補。和。穀。が。お。か。と。よ。て。一。郡。の。守。獲。方。貫。の。祿。み。古。よ。く  
満。足。お。う。ん。とい。う。よ。く。か。く。頭。を。擡。某。寔。不。肖。う。ま。とも。如。是。苦。生  
か。と。菩。提。よ。へ。ま。り。今。ま。と。日。本。廻。園。く。灵。山。天。社。を。巡。礼。伏。娘。君。の。後。

世々 吊ひつる君の父子の武運を祈る。姫うへの落命も。又某が祝髪り。考  
 八房の大ぬゑうも。犬といふ字と二つ小釐き。犬ふも及ばぬ大神が大の一字と  
 そふあふ。大と法名はうんと。や上ひえ矣。実朝臣。通りくと。よろけ。件の犬を  
 そのち。さく筆者。ふち。ちき。る。全身よ。黒白八の斑も。ゆりえ。八房と名づけ。今まつて。八房の二字へ。則  
 せめをなす。き。一戸。八方へ至るの矢ろ。加捕伏姫が自殺の今果ふ。瘞によ。一道の白氣  
 へえ。仁義八行の文字顯とする。百八の殊因を冲天。文字うる殊へ地よ  
 蘭く。その餘の八も光明をも。もへ方へ散乱し。遂に跡をくふ。と。其所以うくへあぐを。後ふ至る。が。名ひ。あらむ。あらうや。あらん。告。提乃  
 おで。まわ。首途の識別。は。只この殊数。よ。まとのあじ。努。秘。義。せよ。入道。と。渝。て。輸て  
 が。賜。タリス。孝德。ハ。も。か。受。く。再。ニ。と。び。うち。戴。き。く。有。く。君の賜。久。今。下  
 ち。よ。く。緒。闇。編。壁。く。旅。去。る。ハ。殊。の。落。く。所。死。盡。絶。の。と。あ。ち。ト。め。の。ど。く。繫。手  
 と。見。人。み。一百。八。の。數。よ。満。ま。又。當。圓。へ。左。そ。と。く。見。系。よ。入。り。い。年。久。歷。る。と。  
 音。耗。み。く。旅。よ。行。よ。野。ざ。の。體。へ。餓。う。犬。の。腹。を。肥。く。み。う。と。思。ひ。れ。よ。  
 え。是。ぞ。寔。ふ。今。生。の。も。ん。別。ふ。い。へ。と。思。ひ。切。く。そ。や。け。る。こ。の。時。既。ふ。日。へ。暮。よ。  
 よ。夜。ハ。も。や。初。更。の。こう。ま。よ。夕。日。よ。と。程。明。く。月。ハ。半。輪。の。雲。も。う。山。み。へ  
 ぐ。る。山。み。る。萬。樹。の。影。あり。轟。く。た。木。水。の。音。颶。く。た。松。の。声。陽。を。断。媒。う。み。鹿。へ。峯  
 上。小。鳴。く。白。露。の。霜。と。う。父。悲。く。猿。へ。幽。谷。ふ。叫。く。孤。客。の。夜。裳。を。寒。く。む。  
 え。き。と。見。ま。ま。だ。の。う。早。み。來。て。纺。み。寂。く。深。山。聲。ふ。ひ。つ。と。口。か。む。行。ひ。と。ほ。しきん。  
 き。伏。姫。の。み。父。の。主。終。頻。ア。モ。感。嘆。せ。り。當。下。堀。内。食。乃。ハ。孝。德。ホ。と。幾。く。  
 い。か。姫。う。への。自。殺。よ。より。く。時。死。祿。さ。せ。り。ひ。く。日。も。暮。山。へ。嶮。く。み。み。下。  
 とう。と。向。ハ。父。の。よ。さ。と。と。夜。と。も。ふ。あ。よ。明。さ。せ。う。ひ。う。へ。も。亡。體。を。り。ふ。せ。え。  
 ど。よ。ま。ま。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。い。れ。

名ひきと向ひて雲霧時沈岭の下に所理アモとふく曉ニセアムント。遠慮  
キシホ似テ。呼経和敷と某と姫の亡骸を昇奉す。コトが君へ以ればから。  
蕉火を把せアム。下山をつとふせあり人软麓よりあん俱の人々を留め多  
シ。とうけきりへり。迎はまし。纏その共耳怖。この溪洞を涉はざむ。  
前面の岸よりあきこめく遭キ。さうとあじ。この纏ヘアド。とうち相禪。  
義寔ヒミ衣仗アモ。伏姫も。只。去歲より。小在玉けの衣  
弓箭。とる方の主役三人。毒蛇猛獸をもそろく。あ。一夜亡骸と戻すと  
之を遼く麓。エド。此を以ひ被。伏姫。小男兒。みとく。まや。死。伏  
姫が心操。親。あ。うきのぞ。五十子。又。泣。す。公。よ。か。も。も。ぐ。と。  
み。が。す。姫。を。行。し。今。そ。慚愧。よ。嘘。さ。の。あ。よ。今。そ。の。死。み。及。び。  
ヨ。ヨ。一滴の涙。と。心。せ。ど。魂魄。しま。ご。と。死。き。う。ま。ハ。汝。達。が。纏。綸。女。ミ。

と。伏姫。小。矣。至。え。枝。爪。を。と。く。火。と。焼。つけ。よ。こ。色。ゆ。割。籠。を。む。づ。べ。  
い。そ。ぐ。と。う。と。宣。べ。貞。れ。孝。德。感。激。く。且。伏。姫。の。亡。骸。を。洞。の。中。へ。と。ある  
ら。せ。主。後。石。門。の。樹。下。小。團。坐。と。も。づ。み。天。の。明。る。爪。や。も。づ。り。浩。氣。よ。前。面。  
岸。ふ。難。の。集。火。圓。多く。人。陪。坐。よ。や。の。見。う。自。然。遙。よ。こ。日。暮。る。こ。ハ。ト。を  
人。こ。が。も。迎。え。無。事。と。ひ。で。や。此。の。難。火。傍。せ。人。と。の。ひ。も。だ。ら。き。衝。と。左。て。脇。く  
水。際。よ。ま。り。出。其。外。ふ。ア。ゆ。り。蕉。火。へ。む。迎。の。人。こ。う。じ。殿。ア。ど。う。こ。ふ。在。ま。ぞ。  
ヨ。ル。く。ま。

吾。们。既。小。こ。の。川。底。浅。せ。り。風。吹。ふ。と。う。う。う。人。す。く。流。き。え。緩。く。顔。ハ。浅。ト。そ。く  
ヨ。リ。と。声。を。限。リ。少。び。う。け。と。折。う。追。風。う。と。ま。と。そ。の。声。定。ふ。せ。え  
け。ん。蕉。火。を。も。ち。こ。も。と。内。レ。下。坂。を。下。り。岸。ふ。を。立。と。あ。下。く。て。先。よ。と。む  
の。後。下。続。く。下。馬。を。牽。入。と。声。を。あ。じ。と。人。難。堪。一。あ。く。の。岸。ふ。よ。底  
え。ま。ス。名。ひ。行。う。を。女。轎。を。鈎。基。と。り。よ。あ。か。指。急。健。な。う。男。七。八。人。赤。裸。よ。

と直氣昇り。その際へ麓カタに送る者。又瀬田より来るとあてをう。貞乃  
をゆき皆まぐみ。あよびとすと向ふ宿。轎子を昇らし。衆皆水附みづつきゆく  
ひうち。日の没ひくとせ一比ひまど。屋方の帰かせをもつた。吾们既よすまし合あい。  
途とまく迎むかえとまく立たけり折奥まちを。あより火急ひつけのちん使しあれりよそてわう  
も。あ  
共ともおをいそがはせども。つりぎをまく日を消ふし。あるこの岸がわがまほに。ゆ喚  
みまく音おと。あをばうゆかど。さくらん。雨具繞めぐらま松まつ。いふ衆みどりて來くたる約  
だ。あ。つるぎ。うそ。さくらん。轎子こしのこり。引ひ掛け。よからずよからず。かん使しへ專女せんじょ。年  
臺だい。彼かれも使しの轎子こしを捨すて。車くるまも油あぶらして。ひといふ貞乃うち点てん改かえ  
微すこ妙めう。こまく。かん使しとくとく。とりそげ。五六人立たつたまて。あごを  
かまく。まくら。いそま。あなと。ひ見え。細ほそいの麻あさ着き解わかる。轎子こしのこり。引ひ掛け。よからずよからず。かん使しへ專女せんじょ。年  
紀とき四十あまり。あ。柏田かしわだをぞりふう。いぬは比伏城の安平院あんへいんをうごとあ。密  
使しをうけたまふ。前面の岸がわ、あつるのみ。この日火急ひつけのちん使しをまぐ  
道みちを走はし。轎夫こしをよこせ。かへる。余あまアタ輪わのまくら。三尺あまくたる白布しらぬ  
を。結むすば。そそご。まき。あく。え。みづき。結むすば。か。舟ふね下帶したの上うより。船尾ふねおのわとよもて白き練ねを。とくへとく  
とく。卷締まきて。まほ。練ねの袴はきをあくと。俗なまふ早打はやううちと。のためを。いと精悍せいがん  
あくと。身みめの。長途ながと孤搖こよと。あふと。目睛めのまきく。左右うしゆと。左ひだり  
け。孤衆こくしゆ皆ま扶たひ。と。行ゆく。負おひ。且よ。其その實じつ。のう。めうめう。よだま  
あ。か。よ。柏田かしわだも。強つよふ。跟つく。足あし。ま。と。其その實じつ。あ。か。よ。か。と。之その由ゆ  
向むか。柏田かしわだ。憶おもき。氣きを。す。ちろと。意いと。頭かしらを。舉あ。か。君きみさ。ゆ。ま。この時とき  
御館ごかんを出でませ。の後のち奥おくの。あん病びやう著おこ。いよ。まよ。重うらせ。かづ。の。敷ひらし。  
かづせ。あら。ど。や。と。問たず。く。時とき。あく。問たず。か。或あるいは。假うそ。漆うす。の。か。ん。擔たん言ごんごん。み。と。假うそ。其その  
かづ。ゆ。ゆ。こ。べ。如おく。わ。の。ひ。く。と。うち。注のぞ。か。一。量りょう。王。在。止。不。痛つれ。す。限かぎ  
ゆ。を。温ぬる。木。へ。さ。と。ん。の。曹ざわ司。養よう成せい。を。わ。衆しゆ。か。角かく。憂う。う。愁しゆ。う。せ。多た。ひ。く。父ちち。え。を。嫁よめ

君をみづうち訪せり。人となく。実へ富山ふ姫をもひぬ。以て一日を也。前日かのうと  
 姉妹ねく。之とまゐる。とくらえ。へうち驚ひぬ。とく。富山へ名す。とく。魔  
 所とく。駆けり。彼れへ。起る。あり。異う。くかへ。還り。とく。喚に。あれ。とく。ス  
 つ。えどし。  
 あく。ふ。曹司も。のとせ入を。べゆま。と柏田へ。被ふの業内。知る。め。ち  
 実ふう。と屋方。出を。せめり。とよ。やまと。一時へ。過べ。と。そが。途す。と。追著  
 うん。あ。ア。と。びよ。ふよ。く。やせ。と。ま。か。と。ふ。物。と。と。あ。と。遠て。侍館。と。牛  
 よ。人。疲勞。ふ。と。里。く。め。く。肩。を。繙。せ。あ。不。意。が。せ。辛。しく。ま。よ。と  
 あ。う。と。折。う。外。面。き。後者。ホ。舞。さ。と。も。前。面。の。岸。床。ひ。隠。と。火。の。光。と。え。ふ。  
 今。も。わ。水。際。み。と。と。も。あ。と。正。も。一。轎子。み。と。ん。こ。ど。う。や。ね。う。と。で。う。と。ふ  
 罵。敷。動。声。罵。敷。動。聲。罵。こ。う。貞。乃。孝。德。せ。あ。と。走。ア。出。や。う。も。眺。め。再。度。の。氣。絶。が  
 く。え。ー。こ。う。と。扶。被。く。と。と。叫。さ。と。下。初。と。と。と。う。け。め。う。と。と。想。つ。彼  
 卷

約。臺。を。打。あ。り。く。究。竟。の。奴。隸。十。人。あ。ま。う。流。水。斧。切。石。を。踏。除。あ。ま。く。の。岸。ふ  
 車。を。く。ふ。ら。の。ふ。く。約。臺。ふ。轎子。を。括。然。と。の。後。者。ホ。カ。ろ。共。小。舡。と。と。み。く。へ  
 徒。し。来。つ。且。驕子。を。昇。ら。し。と。く。も。く。戸。を。開。け。ぶ。裡。よ。う。ゆ。一。個。の。女。房。を。の  
 と。く。も。ち。と。く。年。ハ。ま。と。二。片。ふ。足。と。そ。の。名。女。嫁。鐵。と。喰。く。と。も。嬢。娟。う。額。髮。又。練。の。斧  
 う。ま。り。の。ま。  
 卷。を。く。る。措。得。と。打。扮。入。柏。田。又。ま。く。人。を。父。す。り。か。く。嫁。鐵。ハ。嬢。子。ソ。却。と  
 ま。く。氣。絶。く。怨。地。又。倒。き。と。く。貞。乃。孝。德。驚。き。く。額。ふ。石。燭。を。吹。き。う。  
 せ。あ。不。飲。せ。ま。く。ふ。勦。る。筋。ふ。口。と。か。く。嫁。鐵。ハ。嬢。子。ソ。却。と  
 か。る。と。ん。使。小。擇。と。く。る。か。の。あ。と。く。長。途。の。疲。勞。を。物。と。も。せ。ぞ。貞。乃。孝  
 德。ふ。渡。と。く。と。く。前。又。ま。じ。う。と。く。実。を。く。声。を。か。く。一度。な。く。と  
 再。度。の。使。へ。り。よ。く。ひ。り。こ。う。れ。と。え。五。十。子。ハ。づ。ふ。そ。や。と。向。せ。ま。く。罪。と。落。る  
 き。と。く。度。と。奥。が。と。今。朝。已。の。こ。う。ふ。と。末。へ。ぬ。い。う。と。伏。燒。め。前。小。事。

使  
急  
水  
を  
流  
す  
松  
高  
女  
乃

堀内自弓



柏田さん共よよとぞ詫よける。矣実頬ふ嗟嘆もく縛絶ふるうと向ひまへ拔  
織ハそのへ頭を擡。ぬ脇邊のるなす。えきうとをみす。跡ふゆる柏田がちへ  
使ふ幸一後ひ。絶ゆあよどかくうみまし。えぞう。跡ふゆる柏田がちへ  
よ。報告す。あは易多とも。機巧の山。登山。まよ。憚あと。汝へ曩裏。柏田と。まよ  
密使を。うけあひまよ。富山へ起を。うとせり。まあまよ。屋方。よ告。發。今宵。公  
過。そといそじまへ。そがまよ。身も。手も。まき。と。や上町。孝徳。貞教。と  
面を。あべ。頬を。低く。嘆息せ。矣。坐。巨細。皆。まし。五十子。今般。情願  
お果。さ。終。が。まよ。亦。迷。纏。そ。ど。も。末期。ふ。あ。ね。や。事。ひ。と。え。よ。や。相。す。そ  
そ。存。命。へ。ろ。し。も。屏。ま。く。行。と。よ。び。そ。じ。汝。ふ。も。且。彼。ふ。そ。よ。と。洞。の。方。と。見。そ。く。  
亡。體。を。示。し。ま。え。ハ。柏。田。梭。織。ハ。曾。う。ち。騎。が。ま。い。ん。後。方。ふ。ま。や。う。る。と。ま。い。  
八。月。火。燭。よ。洞。の。中。公。ほ。く。と。そ。ろ。呼。吉。声。を。立。ご。娘。う。よ。ゆ。ほ。き。

猛。き。獸。よ。傷。き。き。ひ。歎。さ。ま。ス。刃。水。果。き。え。ん。こ。け。と。せ。ス。浅。や。一。や。痛。し。よ。  
と。古。夥。の。ま。よ。へ。後。方。ふ。轉。輶。ひ。哽。え。り。つ。泣。ふ。ま。ま。矣。实。こ。よ。又。日。不。遣。り  
あ。ら。ま。ど。貞。教。ホ。み。宮。ふ。ゆ。う。美。成。が。さ。ざ。狩。ふ。べ。を。よ。入。夥。を。ま。ま。小。糸。れ。へ。曉。  
か。げ。く。山。衣。わ。く。人。大。捕。ハ。十。餘。人。の。奴。隸。の。う。共。苗。ま。く。翌。ハ。伏。娘。が。亡。體。を。  
あ。ら。ま。う。あ。が。う。か。せ。よ。又。ハ。房。を。も。瘞。ぬ。さ。せ。よ。招。く。娘。う。用。人。を。召。ま。と。久。柏。  
田。梭。織。も。こ。の。ま。よ。今。宵。一。夜。ハ。迷。一。置。え。母。の。使。と。う。死。魂。よ。也。向。く。ろ。み  
通。夜。さ。有。よ。葬。の。う。ハ。箇。様。こ。と。叮。囁。よ。指。を。心。を。え。み。不。死。心。が。ひ。く。  
そ。め。こ。ろ。父。の。岸。へ。赴。を。き。へ。迷。至。る。力。の。孝。徳。と。共。よ。水。際。よ。嫁。踞。く。後。者。へ  
あ。の。この。岸。へ。赴。を。き。へ。迷。至。る。力。の。孝。徳。と。共。よ。水。際。よ。嫁。踞。く。後。者。へ  
過。く。官。山。の。麓。す。村。長。ハ。法。師。莊。客。們。り。う。共。ふ。棺。を。打。て。端。て。富。山。の

洞を指く。是へこの晩か美冥瀧田へ帰館の折途より自失を奉て、費の  
 手長と法師門云々の仰せ得く。俄頃又棺葬具火を造らせ。金碗大浦が  
 遷とよく。この山深く遣りけり。又この日より携夫炭燒も入山持もる。又  
 富山を上下まこと所許し。さまで孝徳入道へ件の棺を受とりて且伏姫の  
 死骸と歎め奉。則洞を截ひき。又墓所と。考ムとも碑碣ス。一  
 小松柏双立。自然と墓標とうど。人ども不覺へせず。不喚え義列節  
 婦の墓といふ。入房をも土葬小せり。且只只龕か歎く。敢示棺と用ひ。其  
 あや伏姫の墓をまこと三丈も立て成の方。老も擣樹の下小座む。人亦  
 喚く大槻とりひき。おサのよのゆく。よろび質素よせ。生ハ其実豫て  
 孝徳又祈つまく。呼え姫の志操を汲く。事果て。棺櫬も彼  
 十餘人の奴隸死ぬ。泣く瀧田へ立ち歸り。瀧の法師村長木もとあが  
 里へ帰。手中一小金碗大浦孝徳へ圓頂黒衣を容へえて。大功と  
 法号。且く山畠苗と。伏姫の達より法華經を流誦たると。一日一夜も  
 ええ。四十餘日又及び。さ隨行の瀧田も。五十子の方の葬式をうけ行ひ。  
 ある人とのちんみ小糸敷施行。と。あうて民を賑へ。又洲崎うる行者の  
 石屋。堀内貞妙を遣り。物をも寄進して。衆詣のもの。又道橋を造り  
 て。人をもとよす。功德といひ。とかくもろ福ふ。や五十子伏姫の四十九日水  
 向と。よもと嫡男義成朝臣を絶主と。瀧田も。菩提院の大歎尼の  
 法事あひ。と。伊勢一比。義成はこの法事より、大坊をも召加へよと。使ひ  
 と。富山へ遣さむ。大ハシよをす。と。よす。又彼此を率む。樵夫火のふ  
 き。件の法師へ豫く。よア。准篤と。あく。と。え。後を脊負ひ。錫杖を衝峰に  
 今朝と。山下るとき。吾们瓜見え。瀧田駿と。入道翁尋ね。松木家

るある。このよりヤセ。といひうけも何れともあく知りゆゑ。がとく俟せらへた。ゆえ  
ドといふ。まだく。使者ハ流田へ立入り。緯の趣をヤセ。又実嘆賞大作。  
うすど渠既に誓ひ。六十餘國。偏歷もと。赴去る。八の珠を。舊の珍教。よ  
繫あだ出。生涯安房へかへし。と豫て。いじうとあれば。再会寔。は瑞。だに。迷惑。  
なうと。と。むろ。ちのひつ。再て。役方を。索候。あり。と。さりとて。海。小絶。あや  
あうけん。大坊が。善き。ぬま。あると。あぶ。渠。すま。ふみ。うえ。と。明。年  
伏姫の一。周忌の比。や。で。か。富山。よ。一宇の觀音堂を建立。伏姫の。櫛。す。八  
き。房。が。ろ。の。入。祀。姫の。遠書。の。共。厨子の。うち。が。納め。ら。今。多。富山。ふ  
金。を。と。ま。う。観音堂。あり。かくて。縣の。年。公。歴。と。と。大坊が。音信。に。畢。竟。彼法師。ふ  
申。ま。え。久。後。い。入。そ。後。こ。の。巻。よ。く。解。え。

作者云。此の書。附筆。轉第一卷。より。今。此の。巻。よ。至。る。則。一部。小。境。乃

岡場ハ士出現の。叢端。あり。是より。次の巻。年月。相次。と。ひとと後。の  
よ。か。な。ぐ。そ。の。岡。よ。物。培。ス。し。讐。言。ハ。彼。水。滸。傳。よ。龍。虎。山。よ。洪。信。ホ。が  
石。砌。を。と。の。段。より。林。沖。ホ。が。出現。お。ぐ。そ。の。岡。數。十。年。物。培。う。な。が。エ。ト  
又。り。此。の。巻。の。出。像。の。中。金。碗。大。輔。考。德。が。川。衣。涉。を。國。の。ど。く。文。外。の。画  
ご。と。ち。だ。が。す。画。中。の。丈。人。此。の。出。像。よ。と。う。が。く。ス。忽。若。ト。く。雲。云。霧。の。晴。空。を。か。多。く。知。ヒ  
ト。又。使。女。の。急。松。柏。田。梭。織。を。写。一。ま。ふ。又。在。忍。伏。先。は。て。と。の。丈。人。而。織  
の。空。後。よ。せ。り。首。尾。錯。乱。と。併。す。と。だ。さ。不。あ。よ。と。其。人。の。小。傳。某。歴。後。小。僅。よ。そ。の  
人の。口。中。よ。ア。綴。生。と。を。が。事。を。先。ほ。と。く。而。後。の。を。画。も。亦。是。不。従。ふ。と。あ。り。と。然  
あ。と。あ。と。と。画。通。ハ。只。そ。の。画。と。画。と。と。と。そ。の。意。を。意。ヒ。ゆ。が。方。と。あ。り。と。然  
の。と。作。意。と。岩。轡。る。免。よ。あ。と。と。の。巻。中。も。志。う。と。あ。り。看。官。よ。し。と。察。ま。

里見八犬傳 第二輯 卷之二 終

